

- 1 日時・場所 1月12日(木) 図工室
 2 学年・学級 第1学年4組 (男子14名 女子14名)
 3 題材について

- 本学級の児童は、図画工作科の学習を楽しみにしており、落ち着いて創作活動に取り組むことができる児童が多い。これまで、パスやパスティック、水性ペンを主な画材として画用紙にかいたり、自分で集めた身の回りの材料で簡単な仕組みのおもちゃをつくったりしてきた。また、仕上げた作品を全員で鑑賞し、それぞれのよさを認め合う活動も行ってきた。造形遊びでは、「すなやつちとなかよし」で砂場遊びをしたり、「ならべて つんで」で集めた木の葉や木の実を思い思いにならべてできた形を楽しむ活動を経験した。発想することが難しくなかなか活動が進まない児童や友だちのまねになってしまう児童もいるが、材料を自分が感じたままに操作して楽しむ造形遊びは、どの子にも抵抗なく取り組むことができる。
- 本題材は、身の回りにあるカップ、キャップ、野菜などの材料やローラーを活用し、絵の具で画用紙全紙に、体全体でかかわりながら写し、そこから生まれる形や色などを楽しむ題材である。児童が、「写す」ことを通して積極的に活動にかかわる中で、自分の気持ちを和らげ、試行錯誤することを楽しみながら活動できることが大きな特徴である。また、グループで1枚の画用紙(全紙)と4色(赤・青・緑・黄)の絵の具、ローラーを共用するため、そこには、友だちと共同で活動するという自然な「かかわり」もあり、児童は、友だちとかがわりながら、他との違いや面白さに気づき、自分の思いを広げていくことができる。
- 指導に当たっては、まず、材料集めについて児童に事前に連絡し、どんなものを写したら楽しいか考えながら集めてくるように呼びかける。学年通信で家庭にも協力をお願いするが、教師がいくつか型押ししたものの例を見せて、できるだけ児童が意欲をもって材料について考えるようにさせたい。また、教師は児童の活動がのびのびと展開できるように、「活動しやすい場所」「汚れてもいい服装」「十分な用具や画材」「適度な活動時間」など環境や材料の設定を工夫し活動に備える。学習中は、それぞれの活動を見守り、ローラーでのびやかに線を引いたり、集めてきた材料でスタンプングしたりと、「写す」面白さを存分に楽しませたい。一人での活動から、友だちとアイデアを出し合いながらの活動へと広がっているところには、それぞれの発想のよさが生きるように言葉をかけて支援したい。

4 題材の目標

- 体全体を働かせながら、絵の具を使って写す活動を楽しむ。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力
評価規準の題材	体全体を働かせながら、絵の具を使って写す活動を楽しもうとしている。	写した形や色の面白さから、自分の活動を思いついたり考えたりしている。

6 指導と評価の計画(全1時間)

一 第	学習活動	学習活動における具体的評価規準
-----	------	-----------------

		評価規準・評価方法	十分満足できると判断される状況	努力を要する状況への手だて
	身近な材料や用具を使って、いろいろな写し方を楽しむ。	ア 活動の様子の観察 イ 活動の様子の観察	・体全体を働かせながら、友だちと一緒に写す活動を楽しもうとしている。 ・写した形や色の面白さを味わいながら、自分なりの発想で活動している。	・ともだちの活動を見て、思いつくようにさせたり、自信をもって進めるように認めたりほめたりする。

7 本時の目標

- 体全体を働かせながら、絵の具を使って写す活動を楽しむ。

8 準備物

(指導者) 画用紙、絵の具、ローラー、雑巾、シート、新聞紙、スタンプにする材料

(児童) スタンプにする材料、汚れてもかまわない服、お手ふき

9 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価規準・評価方法
1 本時の学習のめあてを聞き、学習内容を理解する。	・児童の意欲を高めるような言葉をかける。	
みぢかなざいりょうやローラーで、いろをうつしてたのしもう		
2 活動の約束について聞き、理解する。	・場所、用具や材料の使い方、活動時間について知らせる。	
3 写す活動を友だちといっしょに楽しむ。	・写してできた形や色の面白さをほめ、さらに活動が進むようにする。	○ 写す活動を楽しもうとしている。ア ○ 写した形や色の面白さから、自分の活動を思いついたり考えたりしている。イ ※児童の活動の様子
4 活動の振り返りをする。 ・写した跡を見て回り、活動の感想を話す。	・自由に話せる雰囲気を作る。	

協議会記録

○授業者の反省

- ・ 絵の具の濃さや、用紙の大きさに悩んだが、子ども達は喜んで活動していたのでよかった。
- ・ 12月の絵の具ローラーで遊んだときに、紙が小さいと子ども達が言ったので、大きくした。
- ・ 約束は2つだけにして、細かいことを言わずに自由にさせた。
- ・ 造形遊びは、準備や片付けが大変である。

○学年の取り組み

- ・ 季節と気温で、場所が決まり、場所の大きさから用紙の大きさが決まった。
- ・ 体全体を使わせたかったので、床で作業をさせた。
- ・ 題材は、開発するのか、教科書に準ずるのか迷った。

○協議会

- ・ 画材の用意が工夫されていた。グループで、色つけの雰囲気違っていたのがおもしろかった。一枚の用紙にした良さは、迷っていた子が友達に影響されて色を付け始めていったことだ。作品として残すには、どこでやめさせるのがよかったのだろうか。水加減が難しそうであった。
- ・ 普段集中しにくい子が集中していた。魅力的な題材であるからだろう。
(質問) 「絵の具を使って写す活動はどのように考えていたのか。」
(回答) 「集めた材料を使って、写して楽しむだろうと思っていた。友達とも協力するだろうと思っていた。」
「型押し、ローラーで転がすことを想定していた。」
- ・ ぐちゃぐちゃになったのはいやであったのではないか。写す楽しさはどんなのであろう。作品がの残らなくてよかったのだろうか。
- ・ (授業者) 色を混ぜないで、ちまちまとスタンプすると思っていたので、ローラーも使えるようにしていたが、結局混ぜていた。
- ・ ローラーで色つけをして、乾かしてからスタンプするときれいにできたであろう。
- ・ (授業者) 体全体を使わそうと、ローラーをさせた。
- ・ 用紙の大きさや形が違っていたらもっと違うものになっていただろう。
- ・ 紙を付け足していくと、広がりが出ただろう。絵の具の入れ物に、ぞうきんなどが入れてあればよかった。
- ・ 自分の作品を残したかった人もいるかもしれない。友達と相談することがあれば、
- ・ スタンプを生かしながら作品作りができたかもしれない。
- ・ (司会) 評価についてはどうか
- ・ (授業者) 座席シートで評価を記録していた。写真やビデオを使うことも考えていた。・高学年の評価は、楽しんでしていたかの観点だけでよいのだろうか。

○指導助言

- ・ 造形遊びの定義は、学習指導要領の解説に書いてあるとおりである。
- ・ はじめ自分が持ってきたものを使っていたが、だんだんとローラーを使うなど広がり、友達と重なっていった。手を使うようになり、新たな方法を思いついていった。
- ・ 発想や構想の評価項目も入っていたので、楽しむことだけが評価項目ではなかった。
- ・ 塗り重ねられたことが納得いかない人もいたかもしれない。
- ・ 紙の大きさや場所を考えることが必要であった。
- ・ ローラーの特性は、長い線が引けることなので、用紙も長い物か広い物がよかった。
- ・ 絵の具の置き場所も大切だ。
- ・ 広い場所、広い画面が必要であった。
- ・ ローラーとスタンプを分けて使うとよかった。
- ・ 水加減が難しいので、スタンプ台があるとよかった。
- ・ ペットボトルなど、溶かした絵の具の入れ物を用意しておくことができる。
- ・ 造形遊びの鑑賞は難しく、途中に見合っていることが鑑賞と言える。鑑賞の評価は難しい。
- ・ 授業のねらいは、関心意欲であったが、評価項目に構想が入っているので、ねらいにも構想が入るべきである。
- ・ 写真や動画で後から評価もできるが、その時間の中での評価が望ましい。
- ・ 題材の開発では、教科書を生かすこともよい。子ども達が興味関心を持てるものがよい。他教科と関連させるのも有効である。